

2006年版関西活性化白書

関西がひらく産学官連携の新たな地平

財団法人関西社会経済研究所(会長:秋山喜久、所長:本間正明)は、「関西活性化白書」を1994年から毎年発行しています。関西経済を体系的に取り扱った情報源として各方面から高い評価を受けております。

今年の白書では、第1章で特集テーマとして「産学官連携」を取り上げ、タイトルを『関西がひらく産学官連携の新たな地平』といたしました。関西経済はようやく回復の足取りを強めてきたとはいえ、今後の持続的な発展のためには、関西から競争力の源泉となるイノベーションの土壌を育てていきたいという、問題意識からに他なりません。

わが国において、産学官連携の取り組みが本格化したのは1990年代半ば以降です。その後、政府の諸施策を背景に取り組みは質・量ともに大きく発展してきましたが、残念ながらその成果は米国と比べて大きく立ち遅れています。また、これからのイノベーションに大きな役割を果たすと考えられる、社文系・芸術系分野における連携は、近年、ようやく始まったばかりです。

第1章のレジュメを次ページに掲載しています。第1章の概要については資料1を、第2章「関西のプロジェクトの動向」の概要については資料2をご参照ください。

「2006年版関西活性化白書 関西がひらく産学官連携の新たな地平」の構成は下記の通りです。関西に関する各種データを収録した巻末CD-ROMを含め、定価1,500円(本体価格1,429円)で、5月29日から全国の政府刊行物取扱所および有名書店で発売されます。

<構成>	序章	2005年の関西経済
	第1章	関西がひらく産学官連携の新たな地平
	第2章	関西のプロジェクトの動向
	第3章	グラフでみる関西
	第4章	関西ビジネスガイド
	第5章	関西年表

【問い合わせ先】

KISER 財団法人 **関西社会経済研究所**
Kansai Institute for Social and Economic Research

TEL : 06 - 6441 - 0145

FAX : 06 - 6441 - 5760

E-mail : kiser@kiser.or.jp

担当者 : 道本 (第2章を除く全般)

矢田・美谷 (第2章)

関西がひらく産学官連携の新たな地平

【1】 関西の産学官連携の特徴

- ・ 関西は金額ベースで全国を上回るも件数ベースではほぼ全国並み
- ・ 中小企業と大学の連携は全国より劣る
- ・ 関西のポテンシャルは高い
- ・ 社文系・芸術系は関西の強みの一つ

【2】 産学官連携の課題

(1) 投資に見合った成果の実現

- － 今後は連携の件数・金額ではなく、連携の果実（結果）が問われる。

(2) 取り組みが遅れている大学のサポートのあり方

- － 大学間格差の拡大する中で、一部の大学だけではなく、連携の裾野を拡げることが重要。先進事例に学ぶ仕組みづくりやTLOを活かすことも検討すべき。

(3) 中小企業との連携強化

- － 関西の地域活性化に欠かせない課題であり、交流の場の提供、金融機関や商社との連携強化が不可欠。

(4) TLOの位置づけ

- － 関西の広域型3TLOは、これまでの役割を果たし終えつつある。新たな展開が必要。

(5) 大学発ベンチャーの自立的成長

- － “零細企業“のままでは成長に限界がある。地方自治体や商工会議所の支援により、ネットワークを強化し、他企業との提携やM&Aも視野に。

【3】 今後の展望

(1) 文理融合コンソーシアム型連携の促進

- － 現在社会が抱える諸問題の解決には、「知の融合」が不可欠。
- － 関西は、社文系・芸術系ポテンシャルが高い。
- － 中小企業の課題解決には、社文系のノウハウが活かされる（関西の課題である中小企業連携強化）。
- － 介護ロボット、医工連携

(2) 産学官連携のグローバル展開

- － 産学官連携のグローバル化の芽が出始めている。
- － 関西はアジアとのつながりが深く、企業はすでにグローバル化。